

入院サポート室が開設されました

お子さんの入院が決まった際、お子さん自身・ご家族はどのような思いでいらっしゃるでしょうか。入院する理由は様々ですが、「入院生活ってどんな感じなのだろう?」、「手術した後って痛いのかな。困ったことがあれば看護師さんに言えるかな?」、「初めての入院だけ子ども一人で入院できるかな」、「家で医療的ケアをしているけど、入院したら気を付けてほしいことがあるな。誰に伝えたらいいのかな。」など、お子さんもご家族も様々な思いを抱えながら入院日を迎えられることと思います。

入院サポート室は、入院する患者さん・ご家族が安心・安全な入院生活を送れるようサポートすること=入院時支援を目的として、新設されました。

具体的な支援内容としては

- ・入院に必要な情報の聴取、入院に対する思いや心配な事への対応

- ・薬剤師による服薬状況の確認
- ・管理栄養士による食物アレルギーや食事形態の対応相談
- ・入院生活に関する説明
- ・退院支援のスクリーニングによる入院病棟との連携
- ・必要に応じてソーシャルワーカー等との連携

面談の際は、患者さん・ご家族、ひとりひとりの気持ちに寄り添えるよう心がけています。入院に際し、何か心配なこと等ございましたら、入院サポート室へご相談ください。



第4回 成育医療研究センター地域医療連携懇親会開催について

- 日 時:2022年11月5日(土)16:45~20:30 ■会 場:京王プラザホテル 新宿区西新宿2丁目2-1
- 第1部 講演会 在宅診療科、リハビリテーション科、胎児診療科医師より講演予定
- 第2部 懇親会 18:30頃~
- ※ご案内状は近くなりましたら、連携登録医の先生方に郵送予定です。(コロナの状況により変更になる場合があります)
- 連絡先:医療連携・患者支援センター(担当:佐藤 代表番号03-3416-0181)

各所連絡先

患者ご家族からのご予約 **予約センター** (直通)03-5494-7300 (月~金 9:00 ~ 17:00)

●医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

救急の場合 **救急センター** (代表)03-3416-0181 (24時間受付)

小児集中治療室(PICU)への転送・搬送 **03-5494-7073** 小児救急搬送チームにつながります

新生児集中治療室(NICU)への転送・搬送 **03-3416-0181** NICUにつなぐように伝えてください

母体搬送 **03-3416-0181** 母体搬送担当の医師につなぐように伝えてください

早期に診療が必要な場合
セカンドオピニオン外来
医療機器の共同利用(放射診断部) **医療連携室** (直通)03-5494-5486 (月~金 8:30 ~ 16:30)

国立成育医療研究センター 広報 SNS National Center for Child Health and Development

国立成育医療研究センターや、成育医療に関する様々な情報を投稿しています。ぜひ、フォローしてくださいね。



発行: 国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆
編集: 企画戦略局広報企画室 村上 幸司 近藤 留衣 田地 美香
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 電話: 03-3416-0181 FAX: 03-3416-2222

成育だより

2022
Vol.31
夏号

Contents

- 新任あいさつ/NEWS/
- セミナー・シンポジウムのご案内/センターの取り組み/
- AIホスピタル事業/診療科のご案内/
- スペシャリスト(ひと)紹介/後期研修医(専攻医・レジデント)紹介
- 研究開発のトピックス



国立成育医療研究センター

新任あいさつ

臨床研究センター 副センター長 三上 礼子

令和4年3月1日より臨床研究センター副センター長に着任いたしました三上礼子(みかみあやこ)と申します。呼吸器内科医として肺癌、呼吸器感染症、結核、気管支喘息などの臨床から仕事を始めました。モントリオールへ留学し基礎研究も経験しましたが、帰国後結婚し出産を経てみると、独身時代のように臨床を続けることができない現実と直面しました。そんな時に、縁あってのPMDAでの新薬審査の仕事が私の転機となりました。二人の子供と臨床医の夫との生活をしながらのPMDA勤務では、職場の皆様にもたくさんご迷惑をおかけしましたが、臨床試験を学んだことが、その後の大学や病院での倫理審査や臨床研究支援というキャリアの礎となっています。

前職の国立国際医療研究センターでは、COVID-19の治療薬やワクチンに関する臨床試験を主催、という貴重な経験を得ました。このたびは成人医療研究センターにお迎えいただいたからには、これまでのご縁で自分の力を一杯、成人医療に活かせるよう努力したいと思っております。

子供たちも大学生と高校生になり、私自身は育児をしていた頃には想像もできなかった自分の時間を仕事や趣味の音楽やテニスに使うこともできるようになりましたが、職場ですらにたくさんの女性が、楽しく活躍できる場を増やすことも、もう一つの目標です。どうぞよろしくお願いいたします。



(経歴)

日本医科大学卒業後、同学第四内科入局。国立国際医療センター呼吸器科レジデント修了後、マギル大学ミーキンス・クリスティ研究所にて喘息・アレルギー病理を学ぶ。医薬品医療機器総合機構(PMDA)新薬審査部、東海大学医学部臨床薬理学教室講師、国立国際医療研究センター臨床研究センター臨床研究推進部長を経て現職。

NEWS ニュース

第47回日本骨折治療学会学術集会にて学会賞受賞

整形外科診療部長 高木 岳彦

演題は「上腕骨顆上骨折/遠位骨端離開とLate displacement 一内反肘変形回避のために」です。当整形外科では日本全国、海外からも手指、足趾の先天異常症例を紹介していただきますが、ほかに骨折後の変形治療や救急患者も積極的に受け入れ、小児の肘周辺骨折も多く扱っております。

上腕骨顆上骨折後の内反肘変形は一般によく知られる合併症です。以前より適切な矯正骨切り術を模索しながら多くの手術を経験して参りましたが、適切な初期治療が最も重要であると考え、この度の調査、発表に至りました。今回170例あまりの上腕骨顆上骨折の単純レントゲン写真の経過を全て確認した

ところ、転位がほとんど見られなくても内反肘に至る症例、逆に転位が見られても内反肘に至らない症例など様々あることを知り、改めて上腕骨顆上骨折の難しさ、奥深さを知る機会となりました。その中でも内側粉碎例、内側転位例そして低年齢に有意に内反肘変形を来す結果となりましたが、特にそのような症例はより正確な整復固定をおこなった上で、慎重に経過を追う必要があることが分かりました。今後は、論文や講演で、今回得られた貴重なデータを積極的に国内・海外へ発信し、啓蒙に努めていきたいと思っております。

腹腔鏡下肝採取手術を実施

移植外科診療部長 阪本 靖介



2022年度に腹腔鏡下肝移植ドナー肝採取術(外側区域切除)が保険収載となりました。

腹腔鏡を用いて侵襲を低くする手術方法は既に悪性腫瘍の領域では広く普及しており、開腹手術と比べて出血量の軽減や術後在院日数の短縮というメリットが確立しています。また腹腔鏡手術の最大のメリットとして傷が小さくすむことにより、長期にわたる創に関する愁訴の軽減や整容面で手術を受ける方への影響が従来の開腹手術よりも少ないことが期待されます。

海外施設における腹腔鏡下ドナー肝採取術および開腹下ドナー肝採取術を比較した検討では、出血量・術後在院日数は減

少し、合併症率や再入院率などは差がないという結果が得られています。当院は日本をリードし世界にも誇る小児生体肝移植の実績をもつ施設であり、豊富な移植経験を下地として、本年5月に初めて腹腔鏡下肝採取手術を実施いたしました。手術を受けられたドナーも大きな問題なく退院されました。今後、一つのドナー手術を安全に実施し、実績を積み重ね、移植を受けるお子さんはもちろん、臓器を提供いただくご家族の方にも安全かつ負担の少ない手術を提供し、手術を受けたことを忘れてしまうほど元気にご家族で遊ぶことができるよう、腹腔鏡手術にも積極的に取り組んでまいります。

第74回日本産科婦人科学会 学術奨励賞受賞

臨床研究センター 研究員 三好 剛一



学術奨励賞:胎児頻脈性不整脈の臨床試験および胎児心不全バイオマーカーの開発

シンポジウム:胎児心不全の診断マーカー及び新規治療法の開発

2022年8月5~7日の3日間にわたり福岡で開催される第74回日本産科婦人科学会学術講演会において初日には学術奨励賞受賞講演、2日目にはシンポジウム(周産期・生殖)に登壇予定です。いずれも同学術講演会における最大のイベントです。学術奨励賞は、胎児

頻脈性不整脈に対する経胎盤的治療として世界で初めてとなる多施設共同試験を研究事務局責任者として運営した功績に加え、胎児心不全を反映する母体血中バイオマーカーを同定した研究成果が評価されたものです。さらに、シンポジウムでは、PDE5阻害剤を用いた胎児心不全治療の可能性について、動物実験に基づく研究成果を発表する予定です。来場が難しい場合でも、オンデマンド配信もありますので、ぜひご視聴いただければと思います。

韓国アレルギー学会国際学術大会にてベストポスター賞受賞

アレルギーセンター 医師 平井 聖子

この度、韓国で開催された、the Korean Academy of Asthma, Allergy and Clinical Immunologyの50周年記念国際学術大会において、ベストポスター賞を受賞しました。受賞した演題は「Utility of antimicrobial allergy assessment for pregnant women」で、妊婦さんに対して出産前に抗菌薬アレルギー評価を行いその転帰について検討したものです。分娩時に抗菌薬を必要とする場面がありますが、抗菌薬アレルギーの申告がある場合、治療に対して最適でない抗菌薬選択が懸念されます。アレルギー評価は適切に行えば妊娠中でも安全に実施でき、当院では、抗菌薬アレルギーを申告した妊婦さんに対して評価(問診と必

要に応じて皮膚テスト)を行い、使用できる抗菌薬の選定を行っています。今回、妊娠中に抗菌薬アレルギー評価を受け、妊娠中や分娩時に抗菌薬投与が必要と判断された妊婦さん全員が、アレルギー反応を誘発することなく第一選択薬を使用することができました。今後も妊婦さんが安心して適切な抗菌薬が使用できるように努めてまいります。



設立20周年記念シンポジウム実施 6/17

当センターは国立小児病院と国立大蔵病院を統合し、2002年に世田谷区大蔵に高度な専門医療を行うナショナルセンターとして開設しました。今年20周年を迎えた事を記念し、現在当センターが行っている小児・周産期医療の「今とこれから」を伝える、オンラインイベントを開催いたしました。ファシリテッドツグ マサがセンター内を探検する動画を見たあと、当センター所属の医療従

事者・研究者がパネリストとして詳しく解説。子どもたち目線で、分かりやすく当センターの取り組みを紹介しました。

この動画はHPでも配信しておりますので、是非ご覧ください。

https://www.ncchd.go.jp/center/pr/info/20th_ncchd.html



セミナー・シンポジウムのご案内

成育こどもセミナーのご案内

当センターの医師が各専門領域について講演するスタイルで、小児医療の基礎から専門的な内容まで、若手の医療従事者にもご参加いただけるような講義をお届けしております。学生、初期研修医、小児科の医師、その他興味のある皆様からのお申込をお待ちしております。

■日 時: 2023年1月までの毎月第3 木曜日18:30~20:00 (7月、8月の開催はありません。)

■形 式: オンライン

■参加費: 無料

■お申込: [成育こどもセミナー](#)



令和4年度小児在宅技術講習会Part2

■日 時: 2022年9月1日(木) 18:00~

■内 容: 小児の気管切開、胃瘻の管理、メーカーからの製品紹介など

■対象者: 小児在宅医療に関心があり、実践を学びたい方

■形 式: Teamsを使ったオンライン

■参加費: 無料

■リンク先: <https://forms.gle/uvtHTEqJe1hLJkQ6> もしくは下記QRコードより

■締め切り: 2022年8月24日(水) 17:00

■お問合せ: 医療連携・

患者支援センター在宅医療支援室 zaitaku-shien@ncchd.go.jp



センターの取り組み

先天性食道閉鎖症および先天性食道狭窄症術後の難治性食道吻合部狭窄に対する再生医療



小児外科系専門診療部外科 藤野 明浩

【対象となる患者さん】

小児外科領域には、先天性に食道が途中で閉鎖している食道閉鎖症と、食道の途中に硬く狭い箇所がある食道狭窄症という病気があります。新生児期から乳児期に問題の箇所を切除して上下の食道をつなげる根治術を行いますが、つなぎ合わせた部分が狭くなり(吻合部狭窄)、通りが悪くなる場合があります。これに対しては、食道内視鏡で確認しながら狭い箇所にバルーンを当て、膨らませて広げる治療(内視鏡的バルーン拡張術)を行うのが一般的です。ところが、この内視鏡的バルーン拡張術を何度行っても狭く戻ってしまう難治性狭窄の患者さんがいます。バルーン拡張術を行うと広がった食道に粘膜の欠損部(損傷)ができますが、その部分が治る過程で収縮してしまい、また狭くなると考えられています。本研究はこのような患者さんを対象とした治療の研究です。

【治療の概要】

頬の内側の粘膜から採取した細胞を培養して、「粘膜シート」を作成する技術があります。本研究は再生医療という分野の研究で、あらかじめ患者さん本人の細胞から作っておいた「粘膜シート」を、バルーン拡張術で発生した粘膜の欠損部に貼り付けて、再狭窄を予防しようというものです(図1参照)。この治療が有効で拡張後の再狭窄発生を予防できれば、患者さんには大きな利益となります。

本研究の正式名称は「先天性食道閉鎖症および

先天性食道狭窄症術後食道吻合部狭窄への自己由来口腔粘膜上皮細胞シート移植」で、安全性と効果の検討を目的として2018年に開始しました。

【現在の状況】

これまで数名の患者さんが研究に参加され本治療を受けられましたが、まだ研究は進行中です。新たな患者さんの参加も可能です。先天性食道閉鎖や先天性食道狭窄の術後で、食事が通りにくくバルーン拡張術を何度も必要として困っている患者さんがおられましたら、本研究への参加協力が可能かどうかお話を伺いますので、下記にお問い合わせください。

【問い合わせ先】 広報 koho@ncchd.go.jp

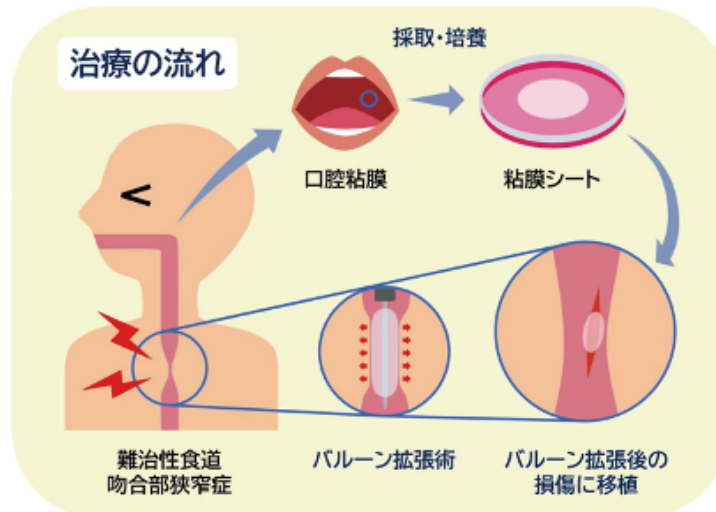


図1

衛生検査センターに「先天性疾患遺伝学的検査部門」が新設されました。

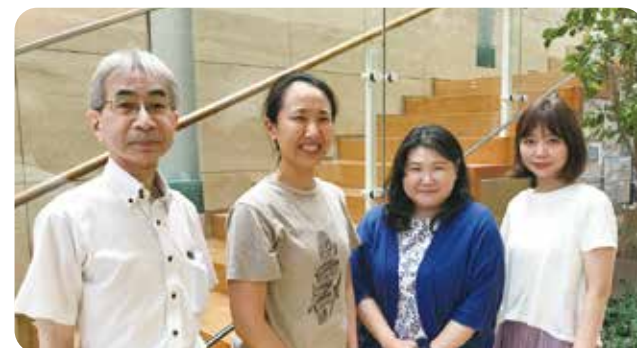
衛生検査センター先天性疾患遺伝学的検査部門 黒木 陽子

当センターの衛生検査センターは、世田谷保健所の認可を受け、2019年3月に小児白血病などの血液腫瘍を対象とした「血液・腫瘍検査部門」が開設されました。血液・腫瘍検査部門では、これまでに年間1,000例以上の患者さんの検体の受託検査を実施してきました。

2022年5月、新たに「先天性疾患遺伝学的検査部門」が設置され、これまで十分な検査が実施されてこなかった稀少疾患や難病の患者さんを対象とした、遺伝学的検査を開始しました。先天性疾患遺伝学的検査部門では、インプリンティング疾患、内分泌疾患、性染色体構造異常症など12の先天性疾患を対象とした検査を実施しています。

衛生検査センターでは、全国の医療機関や研究機関から、当センターのホームページに掲載している「衛生検査センター

総合窓口」を通じて、検査の依頼を受け付けています。当センターで実施する検査の対象疾患、検査内容、受託解析の流れなど、詳細は、当センターのホームページをご覧ください。



センター長 清河 信敬、上級研究員 松原 圭子、室長 黒木 陽子、技術員 植田 亜季

AIホスピタル事業

第2回



整形外科診療部長 高木 岳彦

人工知能(AI)を活用した義手開発

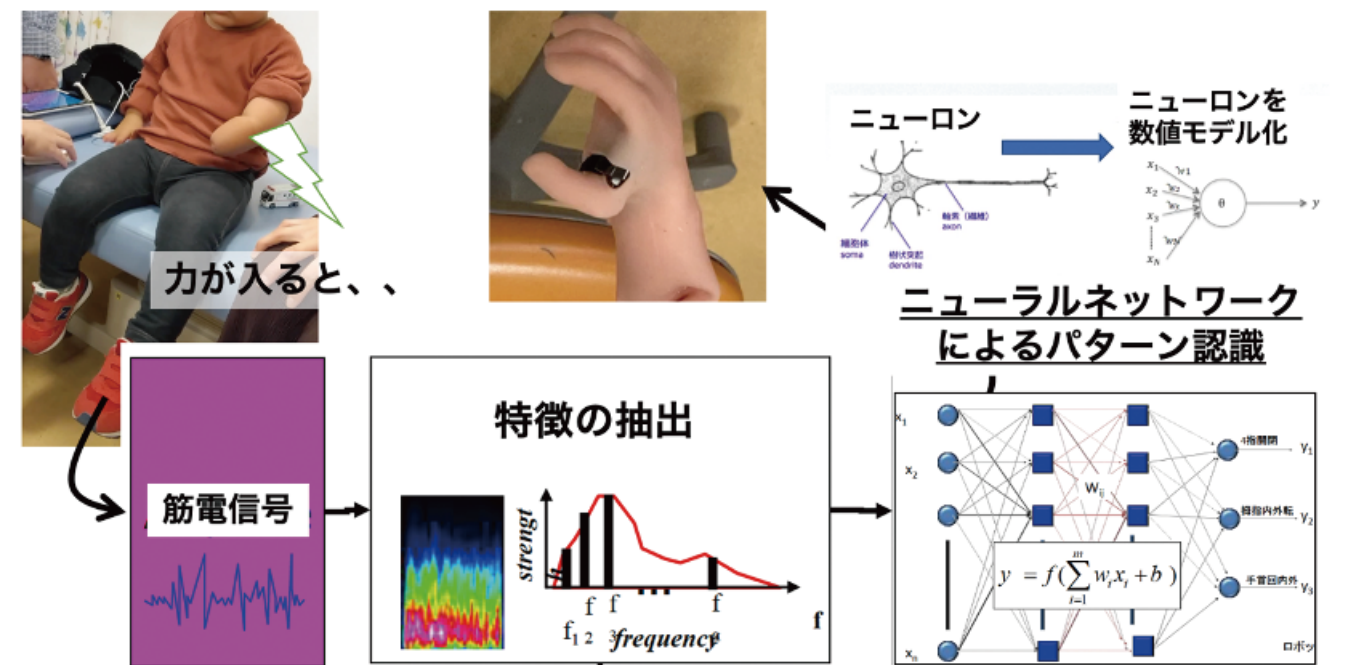
上肢の先天性形態異常(先天異常手)は装具治療、手術治療で機能や形態の改善を図るのが原則的です。当診療科では積極的に紹介患者を受け入れ、様々な手術治療を行い、成果を上げてきました。例えば、浮遊母指とよばれるような重度の母指形成不全においても欧米であれば母指をあきらめて示指を母指化して手の機能を再建しますが、われわれは母指の温存を希望する親の期待に応えるべく足部の骨の移植や筋腱移行を行いながら母指の再建に努めています。このような症例を蓄積しながら、開院から20年を経た現在、国内のみならず国際的にも有数の先天異常手を診療する施設となりました。しかしながら完全に手指あるいはそれより上位の手関節、前腕、上腕が形成不全の場合、手術治療では限界があります。そのため手の機能を外部装置に置き換えて「動く手」を再現する筋電義手に着目しました。

従来の筋電義手は義手に備え付けられたセンサに動き(筋肉の収縮)を合わせていく「義手に動きを合わせる」訓練が必要でした。そこで、共同研究先の電気通信大学の横井浩史教授により、より直感的な動きを筋電義手に持たせるために「握る」とイメージした時に切断端にある筋電パターンの特徴を義手に学習させて「握る」という動きを生み出すことで、直感的に「握る」とイメージしたときに義手が握る動作を行えるような「義手が動きに合わせて」筋電義手が開発されてきました。これは、義手そのものに人の筋電信号のくせを学習させてし

まい、そのくせをもって義手が動くので、より直感的に義手を動かすことが期待できます。学習機能を備えていることからAI義手とも呼ぶべき概念となります。

これまで筋電義手の経験のなかった5歳の女兒にこの義手を試したところ、装着初日に筋電信号を学習させて義手の動作が可能となりました。しかしながら、筋電信号を学習させる際に「握る」「開く」という動作を出してもらって筋電パターンを検知する行程が必要です。小児の場合、指示に従える年齢でない困難です。今後 AI義手の至適年齢を調査していくと同時にAI義手を適応させることで、筋電義手装着開始時期が遅れた場合でもドロップアウト率を抑える可能性も調査していきたいと思ひます。

このように比較的すぐ動作が可能となる義手ですが、日常生活で使用していくためには、リハビリテーションが欠かせません。診療部長上出杏里医師や深澤聡子作業療法士ら、協力いただいている義肢装具士(溝口製作所)を交え、先に述べた横井先生ら工学研究者と定期的に月1回のミーティングを行っています。修正点や改善点を指摘し合いながら、上肢形成不全のお子さんが、それぞれ社会生活を送っていく上でどのようなアプローチが必要なのかを考え、そのツールとしての最適な義手を検討しています。より良いチームワークの中で、社会実装に向け今後も日々努力していきたいと思ひます。



眼科

診療部長 仁科 幸子

当科では“みんなで育む！子どもの目と未来”をスローガンに、小児眼疾患に卓越した知識と技術を持つ眼科専門医5名と眼科専門研修医2名、小児の検査に習熟した視能訓練士8名(常勤3名)、臨床研究員14名、研究補助者2名が一丸となって診療や研究にあたっております(写真①)。2022年3月19日、20日には日本小児眼科学会総会(ハイブリッド)を主催して、全国の1000名を超える眼科医・視能訓練士、小児科・内科の先生方、保健師や看護師さん、視覚特別支援学校の先生方をはじめ熱心な多職種の方々にもご参加いただき、明日へ繋がる研究成果の発表と意見交換の場をつくることができました(写真②)。

▶0歳からの手術とケア

小児の視覚は生まれた直後はぼんやりと見える程度、生後2か月から2歳までに急速に発達します。この期間は視覚刺激に対する感受性が高いので、眼疾患が起こった場合には、できるだけ早く発見して治療をしないと、高度の弱視(脳の発育不全)となって、眼鏡をかけても視力が出なくなります。一方、小児の視覚障害の半数以上は先天素因が原因で、0歳で起こる疾患が約84%を占めています。当科では先天白内障、先天緑内障、未熟児網膜症や家族性滲出性硝子体網膜症などの眼底疾患、乳児内斜視などの疾患に対し、麻酔科や総合診療科の先生方のバックアップのもと、生後早期から手術治療を行う体制をとっています。目の異変を見つけたら、遺伝性眼疾患の家族歴があれば、是非とも新生児期・乳児期から眼科へ受診していただきたいです。

▶子どもの斜視にご注意！

両方の視線が合っていない状態を斜視といい、ライトを当てたりフラッシュ写真をとったときに両眼とも瞳の中心に反射が映るか、片目ずつ手で隠したときに視線が動かないかを観察すると、斜視かどうかを判断することができます。斜視が続くと、斜視の方の眼が弱視になったり、両眼で物を立体的に見る両眼視機能が育たなくなります。それよりもっと心配なのは、子どもの斜視の原因には、

重症眼疾患や脳の疾患が潜んでいる可能性があることです。片目を隠したときだけ嫌がる嫌悪反応があれば、早急に眼科への受診が必要です。コロナ禍で自粛を強いられている昨今は、スマートフォンやiPadを近距離で過剰使用したために起こる急性内斜視も増えています。子どもは自覚症状を訴えないので、斜視を疑ったら、眼科で正しい診断を受けてください。当科は、あらゆる斜視の診断や難治性斜視の手術を得意としております。

▶難病への取り組み

当科では乳幼児期に起こる視覚難病の診断・治療・ケアに積極的に取り組んでいます。中でもレーバー先天黒内障のお子さんには遺伝子解析を行い、将来の治療への準備を進めています。全身麻酔下での詳細な検査システムを利用して病態や進行度を調べ、現在未だ治療法がない難病のお子さんに対しては、都立久我山青光学園と連携して、0歳からロービジョンケア・アイサポート教育相談を実施しています。



写真① 眼科スタッフ 眼科医(Dr)と視能訓練士(ORT)
(後列) 横井匡 D、武井達彦 D、遠藤陽代 O、海外佳奈子 O、北條希 O、大西瑞恵 D、松岡真未 O
(前列) 森川葉月 D、吉田朋世 D、仁科幸子 D、林思音 D、櫻塚絵実 D



写真② 日本小児眼科学会総会を主催した当科スタッフ

教育研修センター

センター長 石黒 精

診療と研究に加え、教育・研修も当センターの重要な使命です。教育研修センターでは、高度に専門的な医療人を育成するために、カリキュラムの充実と魅力ある組織づくりに努めています。

▶若手医師教育

多くの医療従事者に研修・見学の機会を提供しており、毎年レジデント(専門研修医)約80名とフェロー(専門修練医)約100名の若手医師が、質の高い専門研修を受けています。教育研修センターはこのような研修・見学の窓口業務を担うとともに、小児科専門研修プログラムを作成し、運営しています。

全国から集った約40名の小児科レジデントは、3年間の研修プログラムの中で、小児科医の基礎を体得するとともに、各専門診療科で専門的な診療に携わる機会を得ます。クリニック研修では近隣の医師会の先生方に、地域研修では青森、福島、新潟、東京、静岡、広島、沖縄の各都県の連携・関連病院の先生方にご指導をいただいております。また2021年度からは、7年間の研修期間で専門研修および研究を行う臨床研究医コースを開設し、応募者が毎年います。(図1:小児科レジデントの出身地、図2:2021年度レジデント卒業式)

▶研究教育

研究所および臨床研究センターを有する当センターでは、基礎研究および臨床研究に関する教育・研修の機会も豊富に提供されています。希望するレジデントやフェローは、研修の一環として研究所・臨床研究センターで集中的に研究に携われます。また、優れた研究成果をいち早く正確に世界に発信すべく、英文校正に関するサポートも提供しています。このような研究教育の成果により、多くの小児科レジデントが研修中に英文学術論文を出版しており、出版される学術論文数は年々増加しています。(図3:小児科レジデントによる学術論文数の推移)

▶研修会・セミナーの開催

多くの研修会やセミナーを開催しており、医療従事者や研究者の皆さんに公開しています(国立成育医療研究センターホームページ>採用・研修>セミナー・学習会)。日本専門医機構の共通講習に認定さ

れているものもありますので、ご活用いただければと思います。毎年、小児医療に興味のある若手医師を対象とした成育サマーセミナー(2022年7月17日開催)、看護師、放射線技師、薬剤師など多職種による成育医療研修会(2022年9月30日開催予定)を開催しており、昨年度よりスタートした成育こどもセミナー～教科書が教えてくれない小児診療の基本とコツ～(全8回)では、お申込みがのべ1万名を超える大好評をいただいております。

▶世界との交流

当センターは海外の16施設と提携を結んでおり、海外からの研修生を例年は40名近く受け入れています。教育研修センターでは、海外からの研修・見学の窓口業務も一括して担っており、外国人臨床修練制度に則った研修などを通して、最先端の成育医療を学ぶ機会を提供しています。



図1. 小児科レジデントの出身地



図2. 2021年度レジデント卒業式

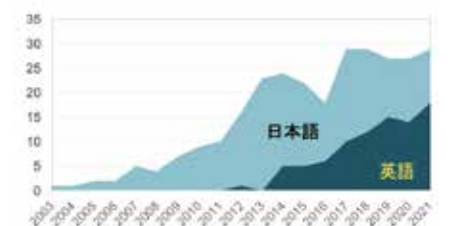


図3. 小児科レジデント学術論文数の推移

手術室看護師

1. 手術室について

手術室では、胎児期から成人期までの幅広い患者さんの手術を行っており、約20診療科の手術を年間4000~5000件実施し、昨年度は5100件の手術を行いました。特に、肝移植症例は国内最多の症例数であり、周産期手術でも高度先進医療として国内初の胎児治療を実施しています。また、小児心臓移植実施認定病院として、昨年度当院初の心臓移植術が実施されました。手術室は全部で10室あり、その内1室は COVID-19感染症に罹患した患者さんに対応できるように常に整備しています。

2. 手術室看護の特徴

看護職員は34名在籍し、看護師長1名、副看護師長2名、看護師30名、看護助手1名で勤務しています。患者さんは、胎児から成人まで、あらゆる年齢が対象のため成長過程や精神発達が様々です。また、先天性疾患を基礎疾患に持っていることが多いため、重症度が高い個々の患者さんに合わせて安全な手術環境を提供できるように日々看護をしています。手術室看護師は、細やかな観察とアセスメントを行い、看護専門職者として質の高い看護を提供できるように自己研鑽に努めています。また、手術を受ける患者さんやご家族に対して術前・術後訪問を行い、不安等への精神的サポートを行うとともに、手術の経験がプラスの経験と感じられるような関わりを心掛けています。

3. 移植医療について

昨年度、小児の患者さんへ心臓移植術が実施されました。術後定期的な検査のため手術室入室した際には、元気に成長している姿を見ることができ、スタッフの励みになっています。また、当院初の脳死下臓器摘出術が実施され、日本臓器ネットワークと連携し5つの臓器が6名のレシピエントへと提供されました。手術に関わったすべての医療者が、臓器提供された患者さんを想い、敬意と

尊敬をもってひとつのチームとして手術を実施しました。手術室の役割は、ドナーやドナー家族の臓器提供をしたいという気持ちを尊重し、最善の状態臓器を引き継ぐことです。レシピエントの方の心臓の拍動が再開したことを聞いた時には胸が熱くなりました。後日、担当した看護師が手術室内で症例報告会を実施し、手術報告だけでなく、医療者側の心のケアについても話し合うことができました。今後も、命をつなぐ移植医療が円滑にできるよう体制整備を続けていきます。

4. 最後に

手術室看護は、知識や技術の習得はもちろん必須ですが、手術室看護師が周術期チームをまとめるための要となるため、患者さんや仲間を観察する力、あらゆることへの気遣いができることが大切です。これからもスタッフが丸となり、手術を受ける患者さんやその家族の最善を考えながら看護を行っていききたいと思います。



師長 杉澤 由香里



2022年度入職 後期研修医(小児科専攻医)紹介

久保田 仁美 (くぼた ひとみ)



出身は横浜で昭和大学を卒業後、横浜市内の病院で初期研修を終えました。ありきたりではありませんが、小児喘息で病院にお世話になることが多く、自分の幼少期と似たような境遇のお子さんの役に立ちたいと思い小児科医を目指しました。趣味は読書とピアノです。どうぞよろしくお願いいたします。

佐藤 英里 (さとう えり)



出身大学・初期研修:杏林大学。伊勢神宮近辺で生まれ育ち、小学生以降は東京都練馬区で過ごしました。趣味は運動で、スバルタンレースへの挑戦を計画中です。子どもたちの未来を支えられる小児科医を目指し、日々邁進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

黒木 興心 (くろき こうしん)



出身地、出身大学:岐阜市、岐阜大学。高度な先進医療や英知が集結している場所で、臨床と研究の両立によって小児医学会に貢献すると共に、両立なさっている多くの先輩医師をロールモデルとし、自身も将来的に少しでも貢献したいと思ったため、成育医療研究センターでの勤務を希望しました。趣味:カフェ巡り

東 志勇 (ひがし ゆきお)



福岡県出身、九州大学を卒業後、静岡県浜松市の聖隷三方原病院で初期研修を修了しました。趣味は漫画・映画鑑賞とドライブです。未熟者ではありますが、こどもたちと、近くで支える皆様に明るい未来をもたらせよう、成育で経験を積んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします!

三原 あゆみ (みはら あゆみ)



出身:千葉県 東京医科歯科大学。これから成育で働けることを大変嬉しく思います。小さい頃は幼稚園の先生が大好きで、夢は幼稚園の先生になることでした。子どもながらに憧れたその先生のように、子どもたちに寄り添える小児科医になれるよう精進して参ります。趣味:一眼レフで写真撮影すること

飽津 貴史 (あくつ たかし)



出身は北海道で、特に雪の多い岩見沢という街で育ちました。東京大学を卒業後、東京医療センターで初期研修を修了しました。趣味は食べることです。成育というハイレベルな環境で日々邁進し、皆様に信頼される医師を目指します。よろしくお願いいたします。

石川 和 (いしかわ かず)



兵庫県神戸市出身で高知大学を卒業後、虎の門病院で初期臨床研修を修了しました。趣味は硬式テニス、サッカーです。当院では志の高い同期・先輩に恵まれ、学ぶことができません。一人一人の患者さんと誠実に向き合いながら、毎日をご過ごしていきたいです。

酒井 伶奈 (さかい れいな)



福島県生まれ、東京育ちで、東邦大学卒業後は沖縄県立南部医療センターで初期研修を行いました。小児科医としての第一歩を成育で始められること、大変楽しみに思っています。たまには大好きな海に潜ったりもしつつ、沢山学び、ここでしかできない色々な経験をしていきたいです。

阪谷 幸太郎 (さかや こうたろう)



広島県出身、防衛医科大学校を卒業し、初期研修を自衛隊中央病院と防衛医科大学校病院で修了しました。趣味は音楽鑑賞と美味しいものを食べることです。2か月遅れの入職となり、まずはついていくのに精一杯になるかとは思いますが日々の研修を大事にして着実に成長していきたいです。誠心誠意、努力してまいりますので今後ご指導のほどよろしくお願いいたします。

久野 陽菜 (ひさの ひな)



東京都出身で新潟大学を卒業後、日本赤十字社医療センターで初期研修を修了しました。趣味は読書、劇場でお笑いを観ることです。小児科について幅広く学びながら、患者さんやご家族と信頼関係を築けるような小児科医になれるよう頑張っていきたいです。よろしくお願いいたします。

柘植 朋子 (つげ ともこ)



香川県出身で大分大学を卒業し、都内で初期研修を修了しました。小児医療に真摯に向き合い、お子さんと一緒に日々成長できればと思います。趣味は旅行、美味しいものを食べることです。成育にて日々全力で精進してまいります。よろしくお願いいたします。

新居田 あい (にいだ あい)



神奈川県出身、山梨大学を卒業し、千葉県浦安市の病院で初期研修を終えました。様々な患者さんが集まる成育で、少しでも多くの経験を積み、研鑽を積んでいきたいです。お酒やコーヒーが好きで、趣味は旅行・ランニングです。3年間よろしくお願いいたします。

川妻 加奈 (かわづま かな)



沖縄県出身で琉球大学を卒業後、沖縄県立中部病院で初期臨床研修を修了しました。趣味は旅行、美味しいものを食べる、パルーンアートなどです。患者さんやご家族に寄り添いながら、日々精進して参りたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

林 敬淳 (りん じんちゆん)



台湾出身でチェコ共和国パツキー大学を卒業し、台湾台中と沖縄県立南部医療センターで初期研修を終えました。小児科を選んだのは、いつも子どもの笑顔やあどけない仕草に心を打たれ、彼らとのやり取りの中で自分の成長を実感できるからです。互いに高め合う姿勢を持つ成育の先生方に惹かれ一員になり、皆様に信頼される小児科医を目指し精進して参ります。趣味は料理、旅行とダイビングです。

研究所 成育遺伝研究部



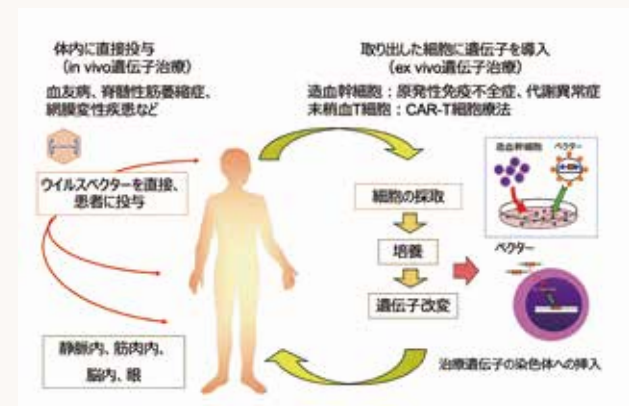
小児難治性疾患に対する遺伝子治療の開発とその臨床応用への取り組み

子どもの重い病気の多くは遺伝病とよばれる遺伝子になんからの異常があることで発症します。このため、遺伝子治療は正常に機能する遺伝子を患者さんに投与することで病気を治したり、病状を軽くすることを目的としています。その方法には直接、患者さんに遺伝子を投与するin vivo遺伝子治療と血液細胞のように身体から取り出せる細胞に培養バッグ内で遺伝子を入れ、再び、患者さんに投与するex vivo遺伝子治療があります。ただ、どちらにしても問題はこの正常な遺伝子をどのように細胞に入れるかです。現在、主に用いられている方法は安全性を高めたウイルスであり、このウイルス由来の遺伝子の運び屋をウイルスベクターとよびます。現在まで数多くの難治性疾患に対してこのウイルスベクターを用いた遺伝子治療が行われ、その有効性から「医薬品」として承認されているものも複数あります。

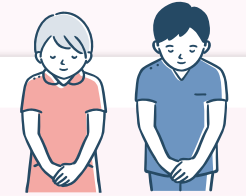
さて、このウイルスベクターのうち、最近、最も開発がすすんでいるのがアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターです。このタイプの遺伝子治療は直接、患者さんにベクターを投与するin vivo遺伝子治療です、このためその対象疾患は全身の臓器となり、目や神経疾患に対しては局所投与として網膜下や脳実質に、血友病などの全身性疾患に対しては静脈注射として患者さんに投与されます。さらに、最近では単に遺伝子を加える遺伝子治療ではなく、病気の原因となる異常遺伝子を修復する遺伝子治療も開発されてきました。この技術は2020年にノーベル化学賞を受賞したゲノム編集技術を応

用したもので、これまで遺伝子を加えるだけの遺伝子治療では対応できなかった病気でも治療の対象となり、遺伝子治療の新たな展開が見えてきています。

難治性疾患に有用な遺伝子治療ではありますが、時に患者さんに強い免疫反応が起こったり、治療を受けた患者さんががんを発症したとの報告もあります。今後より安全な遺伝子治療の開発が求められるため、成育遺伝研究部ではゲノム編集技術を含めた新たなベクターの開発を行っており、同時にこれらベクターを用いた小児難治性疾患に対する遺伝子治療の臨床試験も計画しております。そして、これら研究活動を通じ少しでも国内外の遺伝子治療の発展に寄与できるよう尽力してまいります。



温かいご支援有難うございました!



アイノカタチ(成育)基金は、2021年度に総額1億1595万円のご寄付をいただきました。2021年度におけるご寄付の主な用途の一部をご紹介します。

・ファシリテッド・マサの導入・運営費

2021年7月より、毎月100人を超える患者さんと触れ合い、リハビリや服薬のサポートを始め、日々様々なシーンで子どもたちに勇気とやすらぎを与えています。また、ハロウィンやクリスマスなどのイベントにも参加し、子どもたちに笑顔をプレゼントしてくれました。

・医療従事者の教育支援のための費用

医療従事者のスキルアップや、診療のために必要な資格取得・更新。これらの支援を行うことにより、患者さんへのより高度な医療の提供を目指して参ります。

・イルミネーションとクリスマスツリーの購入

毎年実施している中庭のイルミネーションの、一部装飾を刷新し、外来患者さんだけでなく、入院

中の患者さんにも楽しんでいただいております。また、病棟ごとに新しくクリスマスツリーを購入しました。

・災害対策

近年、異常気象や大規模地震等、災害発生時の体制の強化が急務となっています。災害時にも医療活動を維持していくため受水槽の整備や衛星電話の配備等を行いました。

いただいたご寄付は、アイノカタチ基金の目的(用途)に沿って大切に活用させていただきます。

皆様の温かいお気持ちに改めて感謝の意を表しますとともに、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。



【寄附者ご芳名】2021年10月1日～2022年3月31日(敬称略)

法人/団体のみなさま

- BACK HOME project
- Ensemble espoir 代表 澁江 美加
- MIRAIDIA
- Remember Girl's Power!!2021
- あさや法律事務所
- アシスト二子玉川合同会社
- 一般社団法人 みんなのレモネードの会
- 一般社団法人 OSAKAあかるクラブ
- 大蔵剣道倶楽部
- 株式会社 a n
- 株式会社 Qlife 遺伝性疾患プラス
- 株式会社伊藤園 代表取締役社長 本庄 大介
- 産婦人科・小児科オンライン
- 先天性トキソプラズマ&サイトメガロウイルス感染症患者会「トーチの会」
- 大和証券グループ(ジーンズ・デイ チャリティ募金)
- 千葉骨髄バンク推進連絡会
- 日鉄物産ワイヤ&ウェルディング株式会社
- ニュースキンジャパン株式会社
- ママ応援プロジェクト IVORY合同会社
- 株式会社グローイング つな髪「ウィッグドネーションプロジェクト」
- 公益社団法人東京都獣医師会

個人のみなさま

- 井川 光子 荒井 正道
- 井本 剛司 荒木 徹夫
- 笠井 三男 高平 昌
- 香取 寿一 坂上 美弥香
- 熊谷 むつみ 三澤 雄一郎
- 小貫 邦夫 赤井 朋子
- 中川 李枝子 村上 亜紀
- バルビン フェデリコ 滝口 純子
- 平井 経博 竹内 なのは
- 藤澤 由裕 中村 佳史
- 藤森 立喜 中村 敏弘
- 藤原 良武 平島 裕臣
- 安田 功夫 柳澤 純
- 宇仁 裕美子 林 真人
- 永本 哲夫 鈴木 久和
- 塩田 真史 和田 晋一
- 加茂 駿平 榮 優
- 柿崎 明子
- 角田 浩一郎
- 宮林 雄一
- 溝口 忍



子どもたちの命を守るための医療機器の整備や、療育環境の改善のためにご寄付をいただくとありがたく存じます。当センターへの寄付は税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。詳細はHPをご覧ください。

<https://www.ncchd.go.jp/donation/application.html>



臨床研究センター

臨床研究相談・支援窓口のご案内

当センターでは、医療機関だけではなく、企業や大学等からも臨床研究や治験等の様々な相談(生物統計を含む)を受けられるための窓口を設けていますので、ぜひお気軽にご相談ください。医薬品・医療機器等の開発や、臨床におけるResearch Questionの解決にご利用ください。

<相談及び支援の内容>

- 臨床研究、医師主導治験、企業主導治験の実施・計画策定等に関すること
- 疫学調査の実施・計画策定等に関すること
- 成育REDCapシステムの利用に関すること
- 知財・産学連携に関すること
- 遺伝子細胞治療に関すること
- 各種講演、講義の受託に関すること

- その他、臨床研究・治験等の相談・支援に関すること

<直近3年間の相談件数>

	2021年度	2020年度	2019年度
成育内	153件	141件	101件
成育外アカデミア	21件	27件	66件
営利企業等	17件	17件	24件
計	191件	185件	191件

<申込方法・費用など>

相談日時・時間・場所 申込後に日程や相談方法の調整を行います。相談時間は1時間程度で、オンラインでのご相談も可能です。

相談費用 初回は無料です。その後、各種相談・支援を希望される場合は当センター規程の費用がかかります。

申込方法 相談をご希望の方は、臨床研究センター臨床研究相談・支援窓口のホームページ(右記QR)よりお申込みください。

お問合せ 臨床研究センター臨床研究相談・支援窓口 (crconsul@ncchd.go.jp)

